

II-1

興奮・錯乱・不安焦燥

精神運動興奮

八田耕太郎

順天堂大学医学部附属練馬病院 メンタルクリニック 先任准教授

Point 1 精神運動興奮の背景にある疾患・病態について、優先順位を考えながら鑑別することができる。

Point 2 精神運動興奮を呈する患者に対して、問題指向型のコミュニケーションを試みることができる。

Point 3 精神運動興奮に対する薬物療法を行うことができる。

Point 4 精神運動興奮に伴う生理学的変化を理解しながら身体管理を行うことができる。

1. 精神運動興奮の原因の鑑別

症例1 34歳の男性

〔主訴〕 意味不明の言動

〔家族歴・既往歴〕 特記すべきことなし

〔現病歴〕 1週間前から欠勤し、意味不明の言動が出現するため、家族に連れられて来院した。

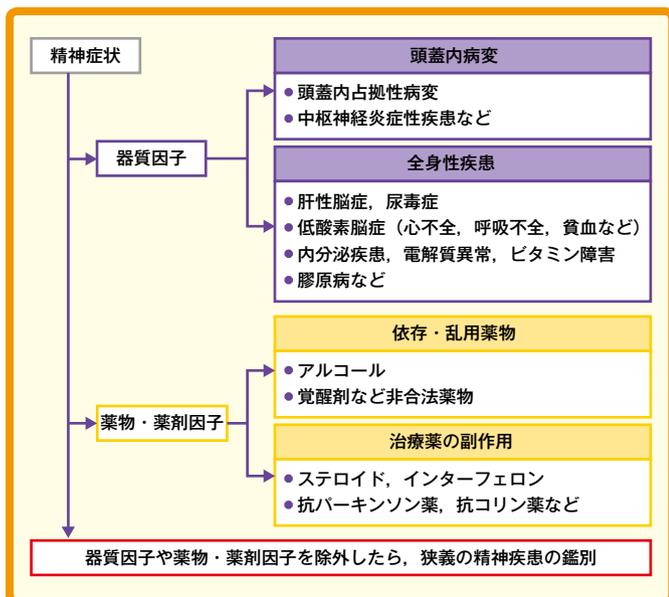
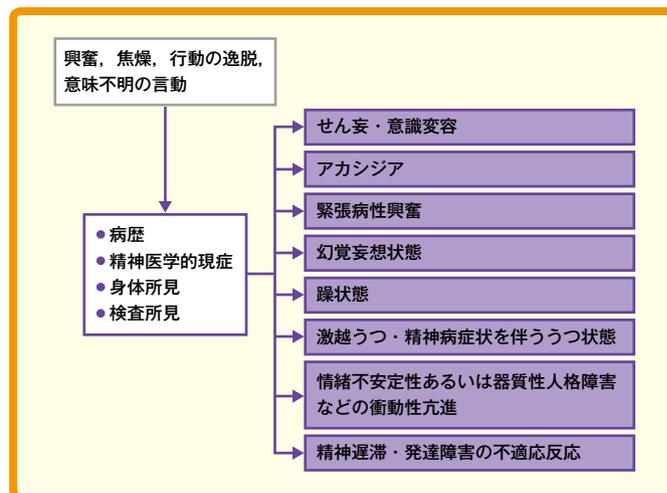
〔現症〕 興奮して仕事の内容を語りだすが、断片的で全体として意味をなしていない。興奮のあまり立ち上がるが、転倒しそうになった。見当識を確認しようとしたが、注意集中が困難な様子であった。

〔身体所見〕 血圧 146/88 mmHg, 脈拍 80回/分, 体温 38.1℃。

精神運動興奮はその非特異性ゆえに、発熱などと同様に原因検索を十分に行う必要がある。とくに**急性発症**の場合は、**器質因子**や**薬物・薬剤因子**の関与が少なくないため、注意が必要である。器質因子には、**頭蓋内占拠病変**や**脳炎**といった脳への直接的侵襲、および甲状腺機能異常やSLEなどの全身疾患がある¹⁾。薬物・薬剤因子には、アルコールや覚醒剤といった依存物質、ステロイドなどの副作用がある。これらの因子が除外されて初めて、狭義の精神疾患の鑑別という流れになる(図1)。精神疾患には、非特異的なせん妄、精神病性障害、躁、激越うつ、人格障害の衝動性亢進、精神遅滞・発達障害の不適應反応などがある¹⁾(図2)。

症例1は急性の発症で精神疾患の既往はなく、1週間前までは社会適応がよかったことから、器質因子の鑑別が必須であった。発熱と注意集中力の低下から脳炎を疑い、髄液検査により確定した。血液検査で梅毒陽性であったため神経梅毒として精査を進めたが、さらにHIVの共感染であることが判明し、感染症科に引き継いだ。

このように思いの外、重篤な病態が紛れ込んでいる可能性があるため、鑑別診断は基本に忠実に行う必要がある。基本とは、前述のとおり、器質因子や薬物・薬剤因子の関与を検討し、しかも優先順位を考えて鑑別作業を進めることである。

図1 精神症状に対する診断過程の基本原則¹⁾図2 興奮を呈する患者の状態・疾患カテゴリーの特定へ¹⁾

2. 精神運動興奮への対処

症例2 44歳の女性

【主訴】 意味不明の言動

【家族歴・既往歴】 特記すべきことなし

【現病歴】 2年前から被害的な言動が目立つようになり、夫にも周囲にも理由不明のまま離婚した。受診当日、混乱した言動とともに興奮するため、元夫と子供に連れられて来院した。その途中でも車から飛び降りようとするなど行動の逸脱が著しかった。

【現症】 高い緊張と猜疑心に満ちていた。しかし本人も自分の状態に困惑している様子で、身体診察に応じ、興奮を鎮めるための内服の勧めにも応じた。

コミュニケーション

興奮の強い患者とコミュニケーションをとる目的は安心を与えることであるが、客観的には静穏化を図ることである。焦燥は興奮との連続性を持ち、背景に幻覚妄想が存在する可能性があるため、その場しのぎの対処で済ませてはいけな

い。被害的認知と焦燥の併存は短期的に暴力・他害の危険性を孕み、罪業妄想と焦燥との併存は自殺の危険性が高い。したがって、援助者であることを丁寧に患者に伝えつつ、冷静に状態を見極める姿勢が重要である²⁾ (図3)。単純な表現で反応をみつつ、焦燥の背景にある疾患は診断学的にはなにか、どの程度の鎮静手段を講じるかを、短時間のうちに判断する。長時間にわたる説得というより押し問答は、医師本人は精神療法のため陶酔しがちなこともあるが、周囲で控えるスタッフには多大な負担をかけていることにも配慮する必要がある。眼前の患者に徹底的に付き合えといわれる向きもあるだろうが、現場では次に発生するかもしれない急患への備えや、他の入院患者への対処も並行して行わなければならないのである。チーム医療を行うスタッフの信頼を得られなければ、現場の用はなさない。

バイタルサインの確認

バイタルサインの確認は、医学的に必須事項であると同時に、患者に安心感をもたらしたり信頼を得られたりするなどの点で、経験的にその有効性が指摘されている。ただし攻撃性の強い患者の場合、噛みつかれたり眼鏡を壊されたりすることがあるため、注意を要する。関連して、患者のパンチが